

第4回「(仮称) 町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」検討委員会 会議録要旨

【会議日時及び場所】

日 時 2016年9月27日(火) 13:30~16:00
場 所 町田市役所 2-1 会議室

【出席者】(敬称略)

■委員

凶司 直也(委員長)、柳沢 厚(副委員長)、老沼 敬助、中丸 康明、市川 孝、田中 英夫、山崎 凱史、岸 由二、新井 英夫、尾留川 朗、間仁田 修

■事務局

荻原北部丘陵担当部長、北部丘陵整備課廣瀬課長、星担当係長、中川担当係長、伊藤主任

■傍聴者

1人

【資料】

次第

(資料1) 第3回検討委員会での主な意見

(資料2) (仮称) 町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン策定スケジュール

(資料3) (仮称) 町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン(素案)について

参考資料

【議事要旨】

- ・事務局より前回の主な意見、アクションプラン(素案)について、説明を行った。
- ・アクションプランの重点事業(案)について検討を行った。

【会議内容】

1 開会あいさつ

経済観光部北部丘陵担当部長より挨拶

2 議事

(説明)

- ・前回の主な意見
- ・策定スケジュールについて
- ・アクションプラン素案(案)

上記について、事務局から説明

(意見交換)

- ・全体で意見交換

3 その他

第5回検討委員会のお知らせ

4 閉会あいさつ

■意見等

<参考資料1～3について>

(委員)

- ・林野庁「森林・山村の多面的機能発揮対策交付金」では、地元自治体の支援を求められているため、市として積極的にアクションを起こすべきだと考える。
- ・また、今後の林野庁の動向を確認し、なるべく地域の活動に交付金が出るように、都や国に要望してほしい。林野庁からの支援もうけることが可能となるのではないか。

(事務局)

- ・この交付金についてはモデル地区等で活用できそうな団体がいれば支援をしたいと考えている。

(委員)

- ・補助金の要件として、境界が確定していることとあったが、町田市で同様の制度を活用しようとした場合、境界が確定していない北部丘陵では今後4年間で地籍調査が進むとも思えないため、活用が難しいと考える。アクションプランの中に入れられないのではないか。

(事務局)

- ・確かに地籍図があることが望ましいが、計画図を策定して面積を算定するというやり方もある。

(委員)

- ・アクションプランの4年間は、次期活性化計画の10年間につなぐステップであり、具体的な手法よりも、どこを誰がやるかということが一番重要である。活動する人がいろいろな可能性を検討しながら進んでいけるようなサポートをすればよい。事例は良いが、そのまま活用できるイメージとしてとらえるのはどうかと思う。

(委員)

- ・ちば里山バンクの参考資料は、こういうことを千葉ではやっているという紹介であって、町田市も同様の方法で進めるという結論には至っていない。

(委員)

- ・地籍が確定しなくても、周辺の人との同意が得られれば道の脇の藪を伐採していくことも可能であると思うし、そういうところから始めていくというのが極めて重要である。

(委員)

- ・山林の管理については重点事業に関わってくる。

<資料3 重点事業、実施事業について>

○実施事業⑬新規バスルートの整備、増便について

(委員)

- ・感覚的に、来訪者が増加してはじめて交通事業者が新たなバスルートを整備したり増便するのではないか。記述が逆でないか。まずは、観光で集客することを前面に押し出すべきである。また、居住者のための交通であることもリンクさせていく必要がある。

(委員)

- ・これまで何度も交通事業者と掛け合った。採算が合わないと実現することは難しいことはわかっている。

(委員)

- ・地域に居住する人にとっては、バスは必要である。最優先で進めてほしい。

(委員)

- ・バスルートの希望にかかわる記載はあってよいのではないか。小山田桜台から唐木田に至る新ルートへの要望は高いとおもう。なお、今後、鶴見川の上流で予定されている河川工事に伴い、遊水池等の公共施設が整備される可能性も高い。場合によってはその結果、小山田神社付近に交通のハブ空間が工夫できる可能性もある。その空間を拠点として、パークアンドライドシステム等を活用すれば、北部丘陵だけでなく、七国山からリサイクルセンターまで散策・移動のネットワークが広がる可能性があり、集客が見込まれる。バスルートの話は町田市も先を見据えしっかりと考えるべき問題である。

(委員)

- ・仮にそうであれば、書きぶりが違う。目的や地域に取っての効果等が軽く書かれているため、地域の実態に着目した書き方でないと先を見据えた話として説得力がない。

(委員)

- ・移動手段に関しては、地域に暮らす皆さんの切実な問題としてしっかり位置づける等、書きぶりを検討したい。

○実施事業⑦丘陵の地形を生かした農地の改善や農道の整備

(委員)

- ・2020年の目標水準に記載されている農地の総面積や農道の総延長は、他の計画の中で整備が必要なものとして既に計画されているものが数値で算出されているものなのか。今後、新規で整備する計画として打ち出す予定の数値なのか。

(事務局)

- ・今まで要望があった農道についてはほぼ整備が終わっており、市で事業を進めるべきと考えている場所の数値である。

(委員)

- ・了解した。

○実施事業⑫生活道路の整備

(委員)

- ・農道よりも生活道路を整備していくことの方が大事である。まずは、居住者最優先で考えてもらいたい。今は住んでいるけれど、次代からは住宅を建設することができない生活道路が11路線ある。地元の人には、生活道路を整備せずに農道整備を進めることが理解ができない。地元に住んでいる人は、北部丘陵のみどりを市民なり、都民なり、国民に提供しており、自分たちの望む土地利用はあきらめ、何とか地域で生活したいと考えている。そのためにも救急車や消防車が入ることができるような道路である。道路を作って、身近にバス路線を通すということを第1に考えていただき、それから次のことを進めてもらいたい。

(事務局)

- ・生活道路の整備については、活性化計画の中でも謳われており、都道155号線については生活道路として整備をしていくということになっている。
- ・農道というのは、生活道路とは異なる整備の仕方である。生活道路というのは、車両が通れる

ような舗装工事となる。

(委員)

- ・生活道路に都道 155 号線だけしか入っていないのはおかしい。

(委員)

- ・生活道路の要望については、地元で考えをまとめた上で市に要望する方が早いのではないか。

(委員)

- ・都心部の人たちは、北部丘陵の農業は地元の方が担い都会の人がサポートしてあげれば、農家が農業活動を通して快適な環境を整えてくれると思っているようだが、なんどもくりかえすようだが、もはや、その考えは誤っていると考える。農家の 2 代目でサラリーマンだった人が戻ってきて、農業ではない暮らし方をすることとセットで、緑の整備のためのお金や人が動くエコリゾートをつくるなど、方向転換が不可避だろう。

○実施事業②、③関連 竹林や雑木林の活用方策について

(委員)

- ・北部丘陵では、山林の管理が一番重要な問題だと思っている。竹林がどんどん増加してきている。竹林や巨木の有効活用について議論し、市で方向性を出してほしい。
- ・先日、千葉のボランティア視察に行ったが、竹炭で生計を立てているようだった。また、北野にはナラの巨木で薪をつくり、足湯に利用しているところがある。最近炭窯にも煙が出ないものがあり、利用できそうだ。木 500kg から炭が 250kg できるようだ。
- ・町田市でも山林バンクを進めたいと考えているようだが、人が動くような仕掛けづくりが必要だと考える。

(委員)

- ・そのような構想があるのであれば、北の谷で進めてはどうか。手伝いが必要であれば、我々も手伝いに行く。今度策定するアクションプランは、できる人ができることをやる必要がある。

○地域の課題に対する対応について

(事務局)

- ・北部丘陵活性化計画の中に記載している生活道路の整備において、具体的に名前が挙がっているのは都道 155 号線のみである。中丸委員の言われる都道 155 号線以外の生活道路についても、市では重要だと認識しているが、今後 4 年間で進めることが難しいと考えるため、まずは農道の整備等を進めようと考えている。

(委員)

- ・計画の立てつけとしては、活性化計画に基づくアクションプランであることは変わらないため、事業についてはある程度進む見込みのあるものとしてラインナップされている。事業については、誰のために行うものなのかが見えてないことが問題になっていると認識している。

(委員)

- ・計画の見直しに向けては、生活道路や移動交通の話等、今から動かさないといけないものがたくさんあるということを市も受け止めていただきたいというのが 1 つある。
- ・また、アクションプランの中に書き込んだ事業は実行され、書き込まれていないから実行されないということではない部分がたくさんある。まずは動かないと始まらないと考えられるもの

もあるため、動けることから動いていくことが大事であると考える。

(委員)

- ・大善や北の谷など、地域の方がやりたいとお話しされたことについては、町田市も応援して進んだらどうか。野中谷戸についても、我々にやらせてほしいと思っている。それぞれ得意とする場所で、必要なものを導入しながら進めることをイメージできるとよい。
- ・田中委員が言われたような、竹林の活用メニューについては町田市も協力し、可能なら新施設も工夫して、小山田・小野路地域を統合して広域対応で進めるのが良い。できないと書いていたら、前に進むことができない。

○重点事業と実施事業の関係性、推進体制等について

(委員)

- ・重点事業と実施事業の関係性がわかりにくい。重点事業については、パイロット的な仕立てにして、6本の新しい事業として立ち上げたり、継続させていく事業であり、重点事業以外の実施事業は重点事業に関連して取り組みを強化すべき事業として出てくるものではないのか。相対的に重要なものを選んでくという感じだと、残りの事業は当面やらないと宣言していることとなる。

(事務局)

- ・重点事業の6項目は、新たに立ち上げたものや今まで継続してきたものが対象となっている。実施事業に記載されていない他の事業については、進めないという事ではない。実施事業は、今後進めるもののみを抽出したわけではない。

(委員)

- ・重点事業については、第1回目、第2回目委員会の議論の中で委員の皆さんに出してもらった意見を形にしたものである。よって、今まで進めてきた事業に重なるものと、新たに出てきた事業もあり、どのような仕立てにするのがよいのかは今後検討していきたい。また、副委員長のご意見は事業の主体の関係性を考えると推進体制と密接に関わると考える。

(委員)

- ・本委員会の内容について、現時点では地元で話をすることができていない。計画内容や事業のメニュー等、形が見えてこない、地元での検討がしにくい。

(委員)

- ・これまでの議論の中で何も決まってないと思う。そのため、例えばこれまで議論で出てきた竹林の利用について、市も含めた別途のチームで検討してもよいのではないかと。

(委員)

- ・この間の視察では、かまどを作って2,000kgの生竹を野焼きで炭にすると、400kgほどになる。

(委員)

- ・この計画をどう地元で落とし込んで、ご理解してもらい、市と一緒に動くかというプロセスが大事だということであると理解した。推進体制の整備のところの記載が非常に大事である。

(委員)

- ・巨木、雑木林、竹の活用方法については、できる限りアイデアを具体的に書き込み、事例を踏まえできるかどうかを皆で検討し、システム化することを考える。更には、市が技術開発を推進することを記載してもよいと考える。

(委員)

- ・今後、事務局で検討する。

(委員)

- ・具体的な方法や、それによる効果が見えにくい。

(委員)

- ・ゆいの里はもとは地元の人々の団体ではなかったが、専門家による指導のもと独り立ちできるようになった。奈良ばいの谷戸の今後の方向性としてどのように外部とつながりを持つかを考えた時、動植物を観察する場・散策の場としての活用がひとつあると考える。
- ・今後も、体験学習ができる子ども向けのイベントを実施していきたいが、そうしたことを実施する場所が不足している。そのため、人を集めるような拠点を奈良ばいの近くに作ってもらいたいと考えている。小山田は町田市の文化の発祥地のような場所でもあるため、そうした歴史を語り継ぐ展示もできるとよい。
- ・地域の農家との交流を求める来訪者もいるが、それは難しいと感じる。
- ・奈良ばいに炭焼き窯があり活用しているが、周辺には竹が不足しているため他から運んでくる必要がある。今後検討していきたいと考える。

○実施事業⑫生活道路の整備

(委員)

- ・生活道路については、都道 155 号線以外も記載してほしい。都道 155 号線は都道であるため、市の事業を記載すべきである。

○実施事業⑤重点事業 幹線道路等の計画・変更等

(委員)

- ・都市計画道路 3・4・40 号線は都道であるため、都への要望として積極的に記載してほしい。東京都の第四次事業化計画に記載されていないからこそ、要望のためアクションプランの中に掲載すべき。図には記載があるが、概要にはその内容がないのはおかしい。

(委員)

- ・東京都の計画に関わらず、都市計画道路 3・4・20、3・4・22 号線と併せて記載したらよいと考える。

○重点事業①新たな交流・回遊拠点の開設として大善地区について

(委員)

- ・大善地区の新たな拠点ということだが、今はこれに対応する組織としては動いていないが、地域に大善地区まちづくり委員会がある。小山田緑地にあった自治会館を大善地区に移転するにあたり、観光客等地域以外の方が使用することを前提に整備し駐車場は 10 台分確保した。町田市初の指定避難施設に指定され、井戸水も掘り起こした。地域では、地域以外の方が使用することを了解している。
- ・空き家があり、地域の拠点として使用できないか交渉している。また、630 号線脇の農地や鶴見川流域の農地について市有地も含め、地域で管理・活用できないかと考えている。まちづくり委員会のなかでは、地域で地域をきれいにしていこうという話でまとまっている。そうした活動等に少しでも報酬が出せたらよいと考える。

○重点事業⑥北部丘陵での活動や魅力の効果的な情報発信

(委員)

- ・情報発信の参考事例を掲載しているが、周辺地域と連携している事例として鶴見川源流祭を追加してほしい。鶴見川流域水マスタープラン関連の流域連携事業として、東京都、国土交通省も全面参加する企画でもあり、ぜひ、掲載しておいてほしい。

○活動の場と活動内容のマトリックス

(委員)

- ・先ほどの中丸委員の大善地区の話はとても具体的で良いと思う。最終的に書き込むかどうかは別として、こんな場所で、こんなことができる可能性があるということを整理することはとても大事であるため、行政として情報を整理してほしい。
- ・例えば野中谷戸エリアだったら、先ほどよそのところに書いてあったが、展望広場からは房総半島や東京湾が見える。そこまでのアクセスとしてボードウォークを作り、あるいは、湧水対応として簡易的な調整池をつくれれば、地域の観光資源になる可能性がある。そうしたイメージは大事である。
- ・これらを進捗管理するためのマトリックスをつくとよい。例えば野中谷戸エリア、大善エリアと書いて、活動が想定される主な団体という中に、主体となりそうな団体、現に活動している団体、応援するかもしれない団体等、整備の進捗状況に併せ追加されるなど、場所と活動の進捗状況を管理できるマトリックスがあるとよい。すべての活動に町田市は必ず入れ込む。

(委員)

- ・野中谷戸エリアが違う。

(委員)

- ・エリアの境界の詳細については市が必要な調整をして、明示してほしい。

○実施事業⑮フットパスの環境整備

(委員)

- ・フットパスについての認識が誤っており、言葉の使い方が間違っている。拠点間をネットワーク化するイメージになっているが、フットパスは道そのものに価値があり、優れた景観を有する道を探し・決めていくことが基本となっている。現実的には、北部丘陵の優れた景観の道を再発掘して、それに絡めて、地域の歴史・文化資源、緑農資源をネットワークさせるのが本来のフットパスである。
- ・また、自然・歴史・文化資源をスポット的に整備するという表現はおかしい。花のある道づくりについても、ボランティアの方たちの努力により結果的にフットパスになるのであって、フットパスだから道に花を飾りましょうというのは本末転倒である。
- ・フットパスのルートは一筆書きのルートではなくて、複層的に網の目のようになっていて、季節やテーマにより歩くルートが異なる。そうした表現については、個別に話をしたい。

(委員)

- ・ありがとうございます。書きぶりについては、別途相談したい。

○第6次産業化の視点について

(委員)

- ・重点事業の中に、農業・交流の視点だけでなく、第6次産業化の視点が抜けている。同じ地域の中で生産・加工・販売できることに価値があり、それにより活性化が期待できると考える。重点事業①の中に組み込む方法でない方法で検討してほしい。

(委員)

- ・第6次産業化の部分は、第1回、第2回委員会でもお金を生み出す仕組みをどうするかという議論を行っている。今回のアクションプランでは、そこは肝になるため、事務局ともう一度検討したい。

(委員)

- ・先ほど議論した、竹の扱いとセットで考えてほしい。

○地域ごとの事業展開イメージについて

(委員)

- ・小野路の馬場地区において、町田市観光コンベンション協会では、農業研修農場を卒業し馬場地区で農業をしている人と連携して、ウォーキングとセットで農業体験教室を行っている。炭焼きも行っているため、加えてほしい。

○資源に着目したマトリックスの作成

(委員)

- ・事業全般に関わるが、今回のアクションプランは4つのプロジェクトと事業との関連付けは記載されているが、地域の人にとってはわかりづらいのではないかと。地域がもっている資源等に着眼しマトリックス化できないか。例えばこういう資源については、こういう取り組みがこれから行われいく予定であるとする方がわかりやすい。その資源の中に当然そこに住んでいる方たち自身も人材として、担い手として入れていくとわかりやすくなると思う。

(委員)

- ・先ほど議論した竹林等の活用手法については、もう少し皆さんで検討してもらったほうがよい。地域をゾーニングし、エリアごとに方針と手法を検討し、場合により外部のNPOのボランティアを募るなど、人を呼び込んで活動を進めていくことが求められている。
- ・千葉では、生竹を3時間かけて750度の釜で焼き炭を作る。それを売却しているらしい。竹炭を活用して足湯にしている事例もある。そうした事例を参考に、町田市でもアクションを起こすことが望ましい。

<意見まとめ、次回委員会の日程>

(委員)

- ・ありがとうございました。最後に少し総括したい。事業についてはこういう切り分けはあんまりしないほうがよいと感じた。また、道路の話や里山の話にしても、活動として動いているところもあるため、今回ここでの議論として何を加えていくのかは委員会の肝だと考えるため、もう一度しっかり検討したほうがよいと考えた。
- ・地元への説明を考えた時、どのように伝えていくのが非常に重要である。そういう意味では事業展開のイメージ図のほうが伝えやすいのではないかと考える。しかし、この資料だと先ほ

ど議論した生活道路やバス等暮らしに沿ったところが描かれていないことが欠点である。そのため、イメージ図だけでは誤解を生む可能性があるため、地元への説明方法については、皆さんからのご意見を踏まえ、事務局で検討してほしい。アクションプラン策定後どうするかも見据えると、この委員会がうまく機能することが大事と考える。

(事務局)

- ・今日は色々なご意見いただきまして、ありがとうございました。ご意見を踏まえ、まとめていきたい。なるべく地元の方にも説明しやすいように、表現についても考えていきたい。
- ・次回第5回検討委員会は11月の1日、午後1時30分から開催する。場所は市庁舎2階の市民応援ルームを予定している。次回の委員会では、本日いただいたご意見を参考にして、修正したアクションプラン案について、意見交換をさせていただきたいと思っている。

以上